

第30回親と子の歴史ウォーク

主催備陽史探訪の会・後援福山市教育委員会

平成24年(2012)5月5日実施



スケジュール

8時半、福山駅前発

9時 園芸センター、開会式

(六つ塚第1号古墳～6号古墳、四つ塚第1号古墳～4号古墳、西の塚古墳)

12時 福山少年自然の家(昼食・クイズ)

13時 同上発

(立岩遺跡、勝負銅山跡、川上城跡、石塔、辻堂跡)

15時半 辻堂跡にて解散

- ① 団体行動なので、主催者の指示を守ってください。
- ② ごみは各自で持ち帰ってください。
- ③ 怪我や体調を崩された方は直ちに申し出てください

備陽史探訪の会 事務局

〒720-0824 福山市多治米町5-19-8

TEL&FAX 084-953-6157

E-メール b-tan-kai@009191.com

公式ホームページ

<http://www3.plala.or.jp/big-eye/>

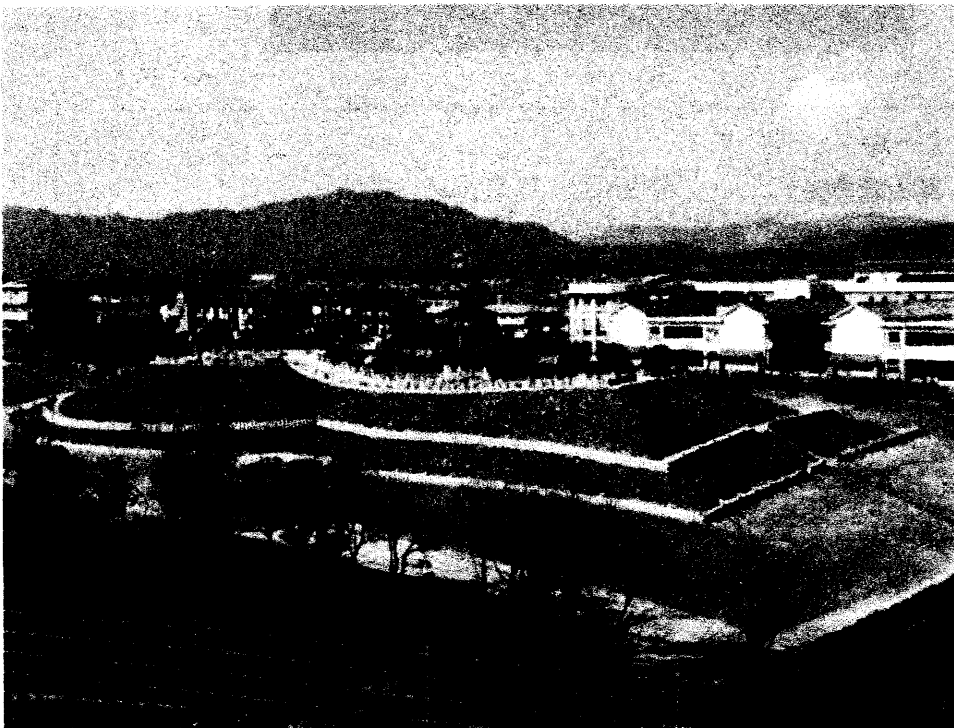
福山市園芸センターから県立福山少年自然の家にかけての一带には、古墳がたくさん見つかっています。

1 「古墳」て何だろう？

古墳（こふん）というのは、古代社会において、おもに支配（しはい）階級の人々をほうむった、土を高くもってつくったお墓のことです。

日本では、3世紀後半から7世紀にかけて、大王（「おおきみ」といいます。のちの天皇）や豪族（「ごうぞく」といいます。各地域で力を持った人たちのことです）が、自分たちの権威（けんい）を示そうとしてつくりました。

九州地方や・出雲地方（現在の島根県）・瀬戸内地方・近畿地方・関東地方・東北地方などに広く分布（ぶんぷ）しています。



三ツ城古墳

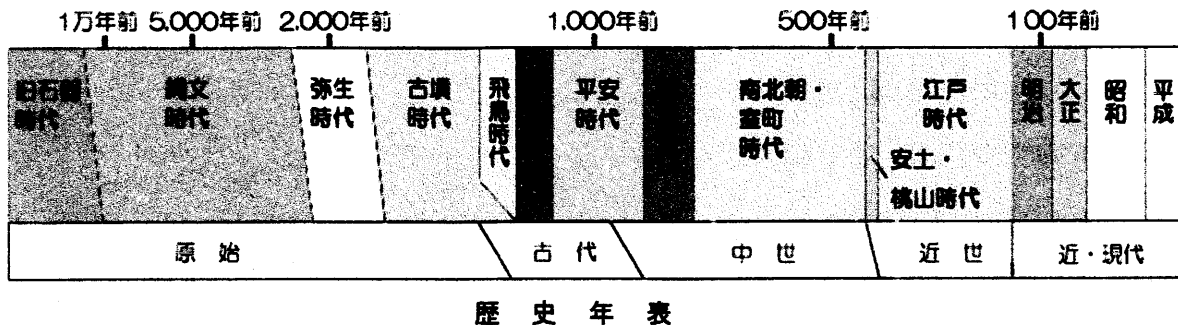
古墳が盛んにつくられた時代のことを「古墳時代（こふんじだい）」といいます。400年以上も続いた時代ですから、大きく、前期・中期・後期の3つに分けています。

3世紀の後半から4世紀にかけての時代が、古墳時代前期です。

この時代は、儀式を担当する首長（「しゅちょう」といいます。リーダーの役割をする人のことです）の政治がはじまりました。

5世紀の古墳時代中期には、強力な首長のネットワークができあがって、今の奈良県や大阪府を中心として、日本列島が一つにまとまりました。

そして、6世紀の古墳時代後期には、中国大陸から仏教文化が伝わってきて、新たな文化が開きます。また、大型の古墳が次第につくられなくなり、逆に、小型のものが爆発的につくられるようになります。



2 古墳にはどんな種類があるの？

古墳の形には、いろいろな種類がありますが、次の4つが代表的です。

- (1) 円墳（えんぷん）…上から見ると円い形の墓で、最も一般的です。
- (2) 方墳（ほうふん）…上から見ると正方形に近い形の墓です。
- (3) 前方後円墳（ぜんぽうこうえんふん）…日本特有の形の墓です。

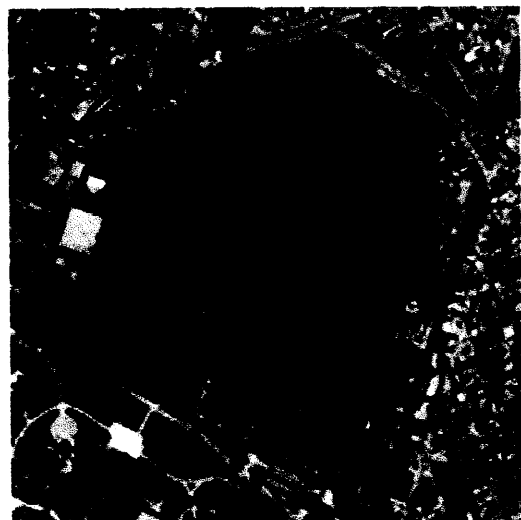
死体をほうむる部分を円形につくり、その前に長方形を継ぎ足しています。

(4) 前方後方墳（ぜんぽうこうほうふん）

…前方後円墳の後円部を四角形にしたもの。

このほかにも八角墳や上円下方墳など、いろいろな種類がありますが、5世紀までのものには円墳や前方後円墳が多いです。

前方後円墳は、大和（奈良県）から各地に広がったものと考えられており、なかでも大山（だいせん）古墳は、世界最大の墓です（ちなみに、広島県最



大の古墳は、東広島市の三ツ城古墳)。

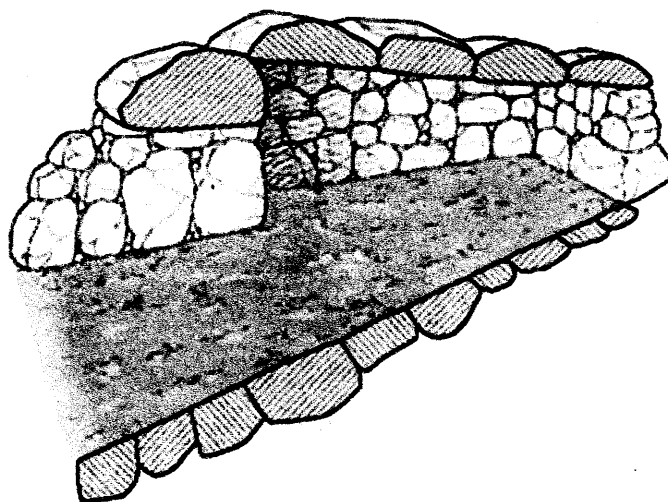
大山古墳

3 古墳の中はどうなっているの？

古墳の中の、周囲を石で囲んで棺（ひつぎ）を納める部分を「石室（せきしつ）」といいます。石室には、タテに穴を掘って、棺や副葬品（ふくそうひん）を納める「竪穴式石室（たてあなしきせきしつ）」と、石室をつくりながら、玄室（げんしつ：棺や副葬品を置く奥側の部屋）や羨道（せんどう：玄室と入り口を結ぶ道）をも

うける横穴式石室（よこあなしきせきしつ）があります。

横穴式石室の古墳は、5世紀半ばからつくられはじめました。6世紀には全国に広がって行きました。今回見学する古墳は、どれも横穴式石室の古墳です。

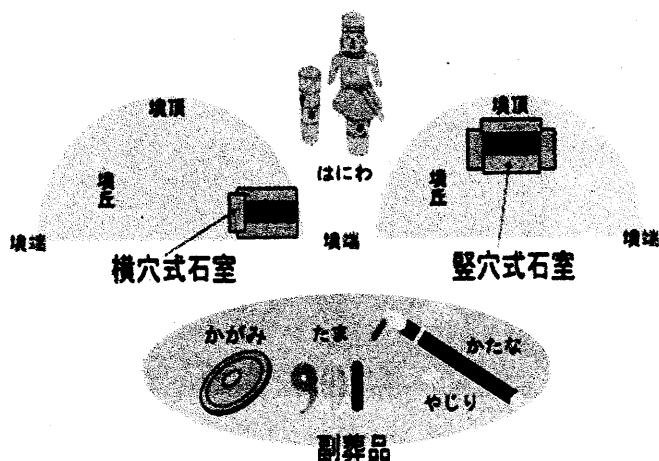


横穴式石室の様子

また、古墳の周りや石室の中からは、いろいろな道具や物が見つかります。

(1) 埴輪（はにわ）…素焼きの土器ですが、古墳の盛り土のまわりにならべられていました。土が流れるのを防いだり、囲いの役割を兼ねた円筒の埴輪のほかに、人物・動物・道具などをかたどった埴輪があります。

(2) 副葬品（ふくそうひん）…前期古墳には、鏡・剣・玉といった、支配者の権威を象徴するものが多かったのですが、後期古墳になると、鉄製の武器や馬具、農具などの実用品が増えてきます。



このことは、支配者の権力が、宗教的なものから政治的なものに移り変わったことを意味している

と考えられます。

4 今回見学する古墳はどんなもの？

(1) 六ツ塚古墳群

6世紀後半に連続して築かれた古墳群で、6基の古墳が残っています。

すべて円墳とされます。最大のものは4号墳で、長さ9.1m、幅1.3m、高さ1.7mの横穴式石室の古墳です。

(2) 四ツ塚古墳群

畑の中にあり、いずれも横穴式石室をもつ小規模な古墳群で、現在4基が残っています。



像できます。これらの古墳は地域のリーダーというよりは、それらを支えた人たちの墓であると考えられます。

六ツ塚古墳群と同じように築かれたときはもっと多くの古墳があったと想



(3) 西の塚古墳

古墳の形は円墳と考えられ、直径8mです。そこに長さ5.25m、幅1.4m、

高さ1.4mの横穴式石室があります。

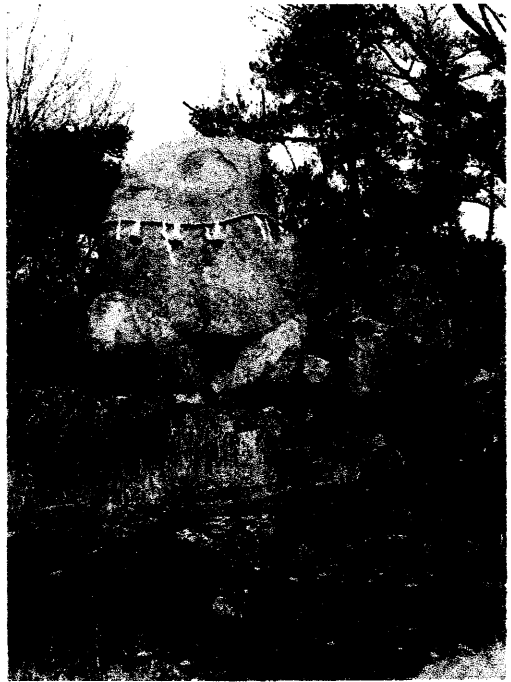
発掘調査により土器の破片や鉄釘、鉄滓（鉄のかす）などが見つかりました。

この古墳は7世紀の初め頃に作られたと考えられています。



立岩遺跡

「天津磐境（あまついわさか）」ともいわれ、古代人が神様をお祭した跡です。「いわさか」の「さか」とは、神域と俗世との境を意味する言葉です。現在も「岩田山神社」として宗教法人登録されており、祭神は神武天皇となっています。氏子も350戸ほどあります。ただし、本殿や拝殿はなく、岩盤の上に巨岩が立っているのをそのまま拝するようになっているので神社には見えません。立岩の高さは約4m、周囲は11mを測ります。岩盤の上に、舟形の巨石2個があり、その上に円筒状の巨岩が乗っています。見た目にはスルメイカに似たユーモラスな形をしています。



勝負銅山跡

ここは昔、銅などを掘っていた鉱山の跡です。掘った銅は各地に運ばれて色々なものを作るのに使われました。奈良の大仏も銅で作られています。その後、廃坑になっていましたが、160年ほど前からまた掘り始めて、昭和十八年まで続けました。1140年前の貞観十二年には、となりの岡山県で採れた銅からお金を作ったことが古い本に出ています。中に入ると、教室のような広いところがあって、そこから何本も銅を取るための穴が掘られています。※今は危ないですから中に入ってはいけません。

すぐそばに、神様を祭る小さなお社があります。ここで働いていた人たちは、穴が崩れないように、怪我をしないように、山の神様にお願いして、仕事をしていました。



昔の銅山の様子



5

今の銅山の様子

川上城跡 (かわかみじょうあと)

中世の山城跡 (やまじろあと) です。江戸時代に書かれた本には、「村上加賀守秀成 (むらかみかがのかみひでなり)」という人が居城したと書かれています。

城の特徴 (とくちょう)

は、高い石垣や天守閣などはなく、茅葺のそまつな小屋が建っていたと考えられます。こうした小屋の建っていた平地を「曲輪 (くるわ)」と呼び、何段も残



中世の山城の鳥瞰図

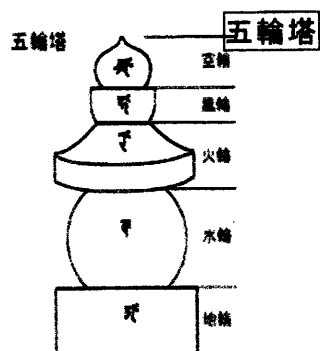
っています。城の周囲は、山の斜面を削ってがけにし、木を生やさないようにして、簡単にはを登れないようになっています。

石塔 (せきとう)

仏さまをおがむために“石でつくられた塔”を「石塔」といいます。インドでお釈迦さまの遺骨を納めた塔 (卒塔婆 そとうば) が変化してさまざまな石塔になりました。石塔は亡くなった人の冥福を祈り供養したり、水害・日照りが起こらず作物が豊作となるよう、悪い病気がはやらないよう、さまざまな願いを込めてつくられました。

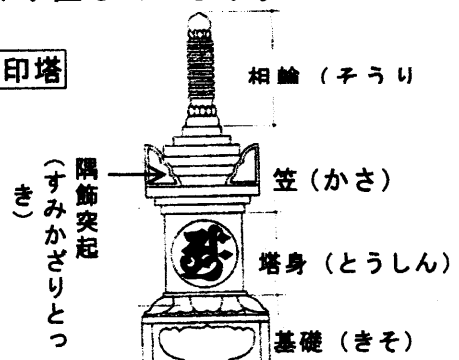
赤坂町川上の石塔

散らばっていた五輪塔 (ごりんとう) の空輪 (くうりん) と宝篋印塔 (ほうきよういんとう) の笠 (かさ) を組み合わせてつくり直しています。



空輪 (くうりん)
風輪 (ふうりん)
火輪 (かりん)
水輪 (すいりん)
地輪 (ちりん)

宝篋印塔



相輪 (ずうりん)

笠 (かさ)

塔身 (とうしん)

基礎 (きそ)

辻堂（つじどう）

備後の辻堂は福山藩主水野勝成公が、旅人のために領内の各村に旅人のために作らせたといわれており、備後地方には今でも多くの辻堂が残っています。

一般的には、吹き放し四本柱で宝形造か寄棟、切妻の屋根を持ち、峠や辻、街道・往還筋など、人の目が届く道沿いに建てられました。四ツ堂、憩亭、辻堂などと呼ばれて、往来する人々の休息場所として活用されていたようです。

現代ではほとんどの辻堂に、本尊が安置され、信仰の場として、守り継がれています。

『福山史料』（1809年）によれば赤坂村に7宇（平木・石本・新開・加屋平・寺前・葛蒲坂・竹下）、早戸村に3宇（蓮花寺・大田・北山）の辻堂がありました。現在は赤坂町赤坂に2宇残っているのみです。

早戸の「大田の辻堂」は昭和45年（1970）に倒壊し、現在は礎石の一部が残っています。近くに阿弥陀堂を祀っています。

